

土壤医試験 1 級合格体験記

吉田 晃 一*

1 はじめに

2012年度からスタートした土壤医検定試験。2013年度からは1級の検定試験も加わり、本格的に始動したところですが、本稿をお読みの方も1級試験合格を目指している方がいらっしゃるかと思います。私は、沖縄県内において、技術士資格のもと農業技術コンサルティングを行っております。その中で、土壤診断業務も手がけていますが、土壤診断に特化した資格である土壤医資格は、顧客からの信頼を確保する上で重要と考え、土壤医検定1級を受験致しました。幸いにして、合格することができましたので、ここに土壤医検定1級試験合格体験を私が行った試験対策も含めて記す次第です。

土壤医検定の試験区分は1級から3級に分かれています。1級の資格名は「土壤医」とされ、まさに「土壤の医者」としての知識・技術を求められます。また、他の試験区分と異なり、受験資格として「土づくり指導又は就農実績5年以上」が求められます。このことから、「土壤医」に求められるのは、座学の知識・技術ではなく、現場の状況を踏まえた上で成り立つ知識・技術であろうと私は考えます。以下の合格体験が、1級検定試験合

格を目指す方に少しでも参考にしていただければ幸いです。

2 試験対策

土壤医検定1級試験は学科試験、記述試験、業績レポートの3つに分けられます。学科試験と記述試験は、試験当日に受験します。業績レポートは試験当日に持参し、監督員に提出します。合格ラインは100点中70点以上と、かなりハードルが高いです。私は、この合格ラインに達するための力、いわゆる合格力は、以下のようにイメージ出来ると考えています。

【合格力】 = 日々の研鑽 + 学科・記述試験対策
+ 業績レポート対策

まさに、合格するためには日々の研鑽に加えて、確実な学科・記述試験対策、業績レポート対策が必要なのですが、これらについて、私が実践した試験対策を述べます。

1) 日々の研鑽

土壤医検定1級を目指している方は、すでに長年の業務経験を経ている方々だと思います。これまで数多くの困難な業務の中で、問題解決のために様々な資料を調べたのではないのでしょうか。この積み重ねが、土づくりや土壤診断の知識となります。また、土壤医は農

* 沖縄農業技術開発株式会社



土壌断面調査風景

家や営農指導に携わる方々に対し、土壌・肥料のことを説明する機会も多いと思います。土壌学の基礎をしっかりと把握できていなければ説得力のある説明ができず、信頼を失ってしまうでしょう。そのため、私は試験に臨むに当たり、土壌学の基礎的理解を深める努力をしました。具体的には、土壌学の参考書を再読しました。私がお勧めする参考資料は、「土壌学の基礎」（松中照夫著、農文教）、「図説 日本の土壌」（岡崎正規ら著、朝倉書店）、「土壌診断の方法と活用」（藤原俊六郎ら著、農文教）、「原色 生理障害の診断法」（渡辺和彦著、農文教）、「堆肥・有機質肥料の基礎知識」（西尾道德著、農文教）等です。これらを試験前までに目を通しておけば、合格力も向上すると思います。

2) 学科・記述試験対策

学科試験の問題数は、4者択一のマークシート方式50問、記述試験の問題数は5問です。これらの問題は、土壌医検定ホームページにあるように、日本土壌協会から出版されている土壌医検定1級対応参考書の「土壌診断と対策 一生理障害、土壌病虫害、コスト低減等対策一」から出題されます。そのため、私はこの参考書を取り寄せ、隅から隅まで読

み通しました。読んで驚いたことですが、この参考書は土づくりに関する資料集としても非常に優れています。そのため、試験後も日々の業務の中で活用しています。この参考書を中心とした勉強が、土壌医検定試験対策の基本になると思います。

次に、試験当日の注意点を挙げます。それは、試験時間です。土壌医検定1級の試験時間は70分です。これは、かなり短いと認識した方が良いでしょう。試験は、マークシートが50問、記述が5問です。総出題数が55問として、1問当たり約76秒で回答する必要があります。簡単なような気もしますが、設問の文章は長く、じっくり読むとそれだけで1分近く掛かるほどです。試験当日は、時間配分も慎重に考慮して下さい。即答できる問題の数が多ければ多少は時間に余裕が出るのでないでしょうか。そのためにも、参考書をしっかりと読んでおくことが重要です。

3) 業績レポート対策

土壌医検定1級では、業績レポートの提出が求められます。昨年度の試験では、検定案内のとおり、現地において作物の生育、収量、品質の改善や生産コスト低減等の成果が得られていると思われることを中心に、①土づくり指導、②土づくりに関する調査・研究、③土づくりの実践という3つの項目から該当するものを選び、1項目800字以内でまとめるよう求められました。複数ある場合は、それぞれ項目を立ててそれぞれまとめることになります。私は、以前、県の農業試験場に所属していた経歴と、現在、民間事業者として土壌診断、技術開発を行っている経歴から、①土づくり指導と②土づくりに関する調査・研究の2項目について、それぞれ800字以内にまとめ提出しました。

業績レポートでは文章で自らの業績を説明することになります。書いてみると分かりませんが800字以内で内容をまとめるのは意外と難しいです。そこで、業績レポートをまとめるにあたり、私が注意した点を2つ述べます。

一点目は、求められた内容に対して端的に答えることです。業績レポートでは、今までの業績を全て記す必要は無いと思われます。求められる内容に該当する業績の代表例を1、2挙げるようにすることで、すっきりとまとめられます。私は、①土づくり指導、②土づくりに関する調査・研究の2項目から、それぞれ2つの業績を代表例として挙げました（必ずしも2つ挙げる必要はありません）。具体的には、①土づくり指導に関しては、a. 土壌診断の高精度化とインターネットサービス提供による利便性向上、b. 農業団体との土づくり指導の連携として、生産者大会や勉強会での講演を通じたアドバイスや施肥コスト削減のための提案実績の2点をまとめました。また、②土づくりに関する調査・研究では、a. 堆肥中のリン酸形態が可給態リン酸増加に及ぼす影響の調査と、b. 特定地域における作物低収要因の解明調査の2点をまとめました。①、②ともに参考資料を提示し、業績レポートに添付しました。参考資料は、新聞記事、報告書の一部、講演資料の一部、試験研究発表履歴一覧と、主な講演要旨及び論文の要約部分を提出しました。参考資料に関しては、一覧表を作っておくと、審査の方が理解しやすくなると思います。

二点目は、論理的な文章作成を心がけることです。論理的な文章作成は、読み手が文章の内容を正確に理解するために重要です。そのためのコツは「起承転結」のように構成を考えることです。私が業績レポートを作成するに当たり、心がけた文章構成の例を以下に

2つ挙げます。

(1) 起承転結の場合

- ・「起」：背景・問題点は何か
- ・「承」：問題点に対してどのような取り組みを行ったか
- ・「転」：得られた成果、結果について
- ・「結」：結果の評価と、今後どのような取り組みが必要になるか

(2) 三段構成の場合

- ・「序論」：背景・問題点は何か
- ・「本論」：問題点に対してどのような取り組みを行い、どのような結果を得たか
- ・「結論」：将来展望はどうか

業績レポートは800字以内ですので、かなり簡潔に記載する必要があります。いきなり本文を書き始めるのではなく、文章の構成を組み立てることから始める事をお勧めします。業績の代表例を複数挙げる場合には、1事例当たりの文章量が少なくて済むように、「起承転結」より簡潔な「三段構成」が望ましいと思います。

これらを参考に文章を作成した後は、家族や職場の同僚などに目を通してもらうことをお勧めします。読んでみてよく分からなかった、という感想を頂いた文章は内容が適切でないというよりも、単に読みにくい可能性が高いです。これでは、業績レポートとして提出しても、審査の方に業績を十分に理解してもらえません。適宜、修正・手直ししていくことが大事です。

3 おわりに

以上が、私が土壤医検定1級試験を合格するために行った試験対策です。

私は土壤医検定の合格は、土壤医のゴールではないと考えます。合格後、土壤医は、継

続研鑽が求められます。これは、土壌の専門家として、常に新しい技術を身につける必要があるためです。私が活動している沖縄県においては、沖縄土壌環境研究会という土づくりに関心のある者達が集まる会があり、そこで土壌断面調査や土づくりに関する勉強会を行っています。今後は、沖縄土壌医の会とも

連携して活動することになると思いますが、このように、自ら研鑽の場に身を置くことも、「農家の目線に立つ土壌医」に求められるものと思います。

ここで記した合格体験が、皆様の合格に繋がれば望外の喜びです。

